



2020年6月29日

各位

会社名 株式会社シーアールイー
代表者名 代表取締役社長 亀山 忠秀
(証券コード 3458 東証第一部)
問合せ先 取締役執行役員 永浜 英利
(TEL 03-5572-6600)

2020年7月期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2019年9月12日に公表しました2020年7月期業績予想を修正することを、本日開催の取締役会にて決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2020年7月期連結業績予想数値の修正（2019年8月1日～2020年7月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	43,600	2,500	2,100	1,300	51.79
今回修正予想 (B)	41,000	3,900	3,720	2,400	95.32
増減額 (B-A)	△2,600	1,400	1,620	1,100	
増減率 (%)	△6.0%	56.0%	77.1%	84.6%	
(参考) 前期実績 (2019年7月期)	23,941	1,651	1,382	696	27.86

2. 修正の理由

本日公表の「物流施設3物件売却に関するお知らせ」のとおり、当第4四半期に売却予定の「ロジスクエア千歳」、「ロジスクエア上尾」及び「ロジスクエア三芳」の売却見込みに伴い、売却価格及び開発利益の見通しが立ちましたので、業績予想を修正いたします。

売上高は、当初予定していた「ロジスクエア川越2」の売却を来期以降としたため、当連結会計期間内での計画売上は前回予想を下回る予想となりました。一方、好調な物流不動産投資市場に加え、適切なコンストラクション・マネジメントによる当初の開発費用の削減及び適切な賃料によるテナント誘致などから、本物件売却の利益率は当初計画を大幅に上回る見込みであり、利益は前回予想を上回る予想です。

3. 中期経営計画について

中期経営計画（2018年9月13日開示、以下、「本中期経営計画」という。）策定後、株式会社ロジコムの子会社化等により、当社の管理面積は順調に拡大してまいりました。また、物流投資事業においては、開発用地の仕入れが順調に進んでいることに加え、アセットマネジメント事業においては、CREロジスティクスファンド投資法人の資産規模も順調に拡大する等、本中期経営計画策定時の経営環境の前提と大きく変わってきております（添付資料参照）。

最近の動向としましては、政府による新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言発令中も社会インフラとして物流サービスは維持されました。また、各自治体からの外出自粛要請を背景に、eコマースの利用が広がりを見せ、今後もオンライン消費の拡大や在庫拡大による物流施設需要の増加が期待される一方、感染症拡大の第2波への警戒も高まっており、今後の経営環境

が非常に不透明な状況にあることから、今回の業績予想の修正も踏まえ、本中期経営計画を見直し、再検証、精査の上で、2020年9月頃を目途として、改めて公表する予定といたします。

4. その他

当社は、CREロジスティクスファンド投資法人（以下、「本投資法人」という。）が実施する本投資法人の新投資口発行及び投資口売出しに伴い、当社が保有する本投資法人の投資口の最大4,000口を売却（以下、「本投資口売却」という。）する可能性があります。

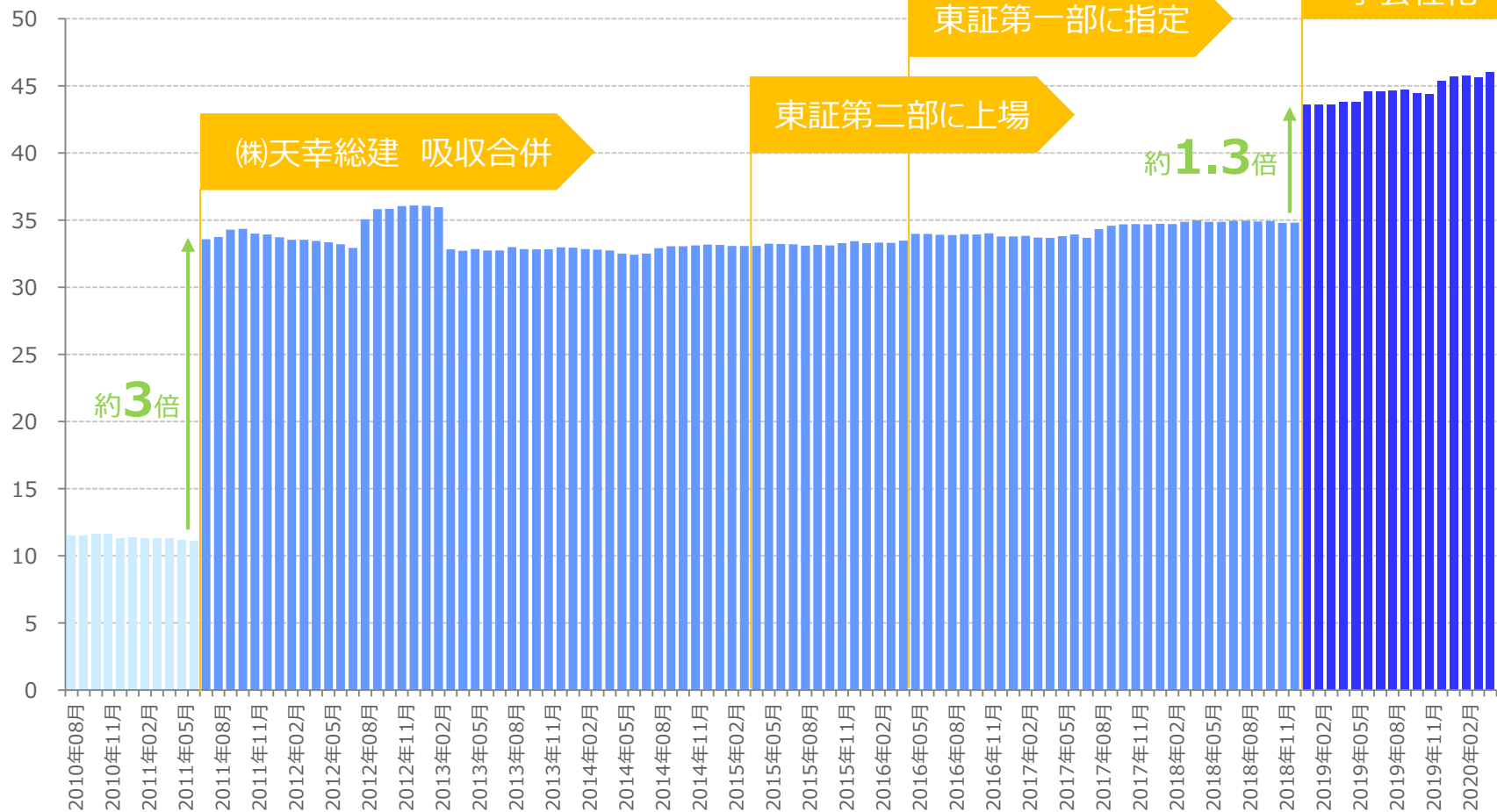
なお、本投資口売却が今期の当社連結業績に与える影響はありません。

本投資法人の新投資口発行及び投資口売出しについては、本投資法人による本日付公表の「新投資口発行及び投資口売出しに関するお知らせ」をご参照ください。

以 上

日本最大級のマスターリース事業者へと成長

(単位：万坪)

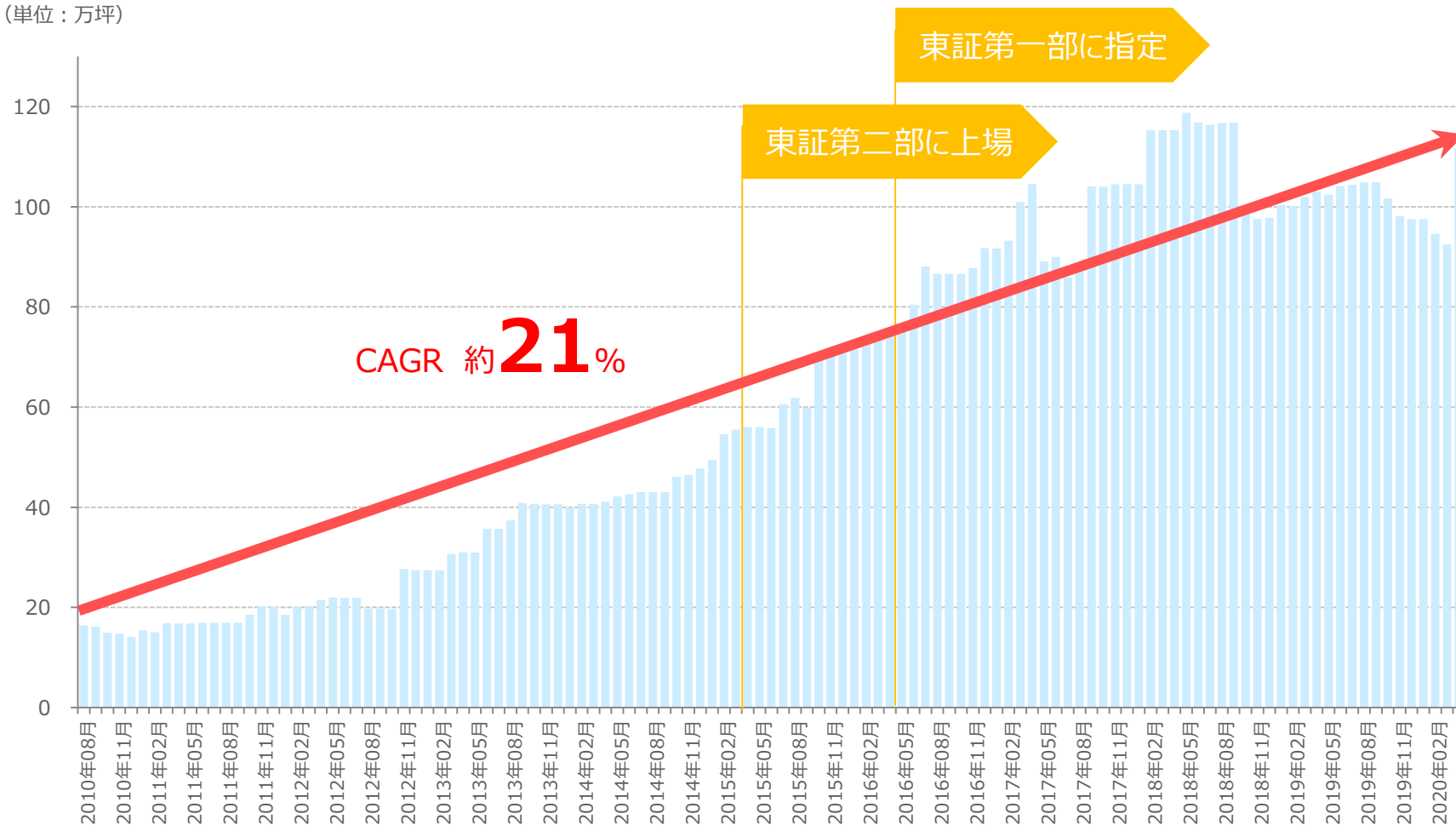


注) 2013年03月より集計方法を変更

物流施設中心型プロパティマネジメント会社の受託面積ランキング第2位※へと成長

※月刊プロパティマネジメント 2019年11月号

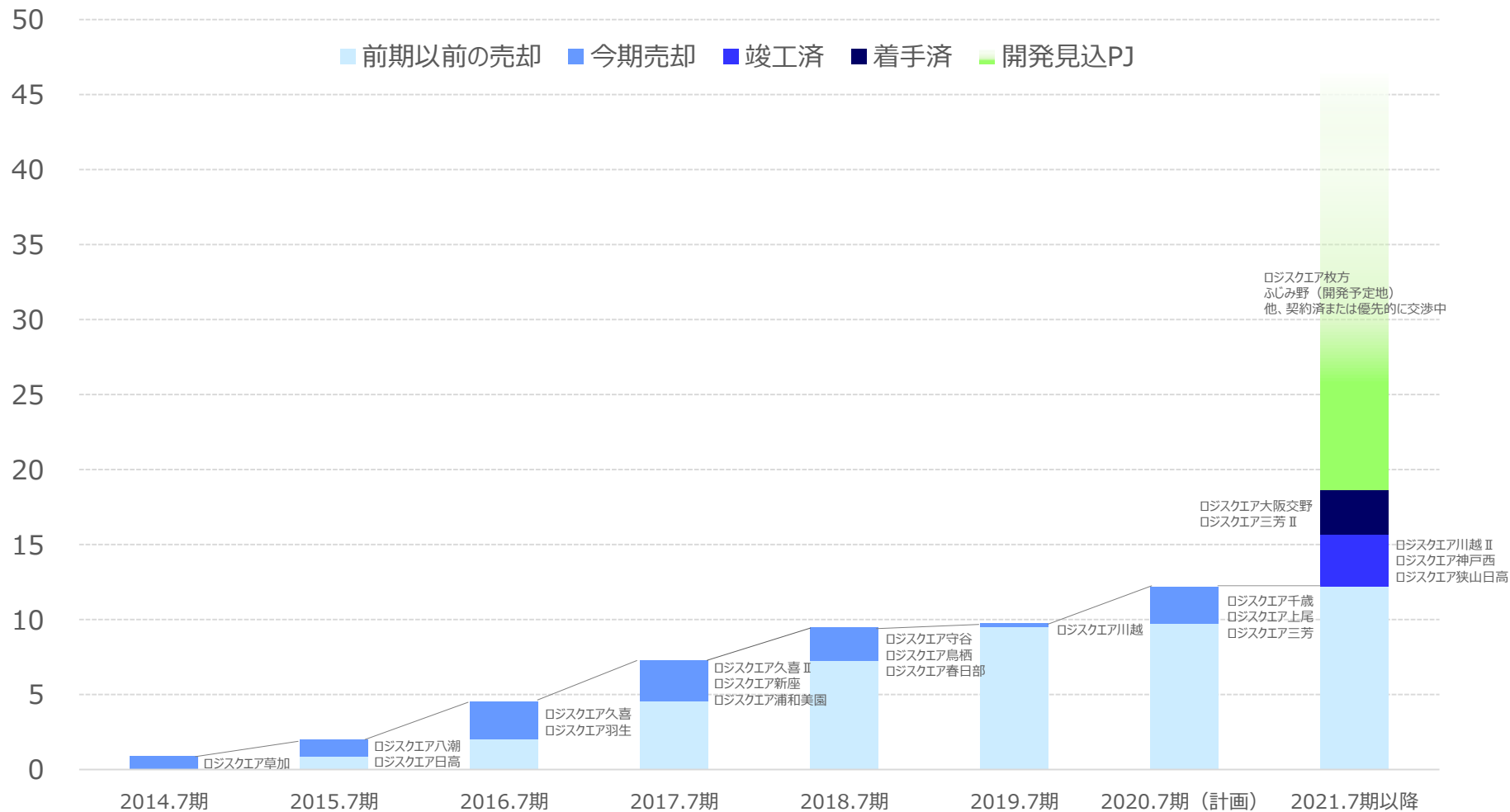
(単位：万坪)



注) 2013年03月より集計方法を変更

豊富なパイプライン

(単位：万坪)



受託資産残高 (AUM) の着実な積み上げ

